



全国農業協同組合中央会会長賞

## おいしいお米を食べるために

石川県珠洲市立直小学校三年

松原 大樹

ぼくが二年生の春に、近所の人たちが「田植えをするから、いっしょにしない？」とさそってくれた。お兄ちゃんといっしょに手つだいに行った。ぼくは、田んぼに四角い線をつけた。「いっちにー、さーん」と三人でかけ声をあわせながら、「ころがし」という道具を使って線をつけた。なぜなら、なえを植える人が植えやすいからだ。その線の上にお兄ちゃんたちが一れつになって、なえを植えた。つかれたけど、みんなできょう力すると早かった。

秋に、いねをかった。全部手でかるから、何日にも分けてかった。ぼくは、休みの日は毎回お手つだいにいった。体がかゆくなったけど、楽しかったから、お母さんに「今日も行くん？」と言われたけど、「ねこの手もかりたいほどだ」と聞いていたから、毎回よろこばれてうれしかった。もうちよつとで食

べられるからがんばろう！かったいねは、さおにほした。台風が来た時に全部たおれて、とても心ばいだったけど、ぶじにお米になった。

三年生になって、もうすぐ田うえだよ！と近所の人  
が田植えをする日を教えてくれて、楽しみにしていた。  
それなのに、五月五日に地しんがおきた。地しんで田  
んぼはひびわれ、水がたまらなくなり、出来なくなっ  
た。なえを植えていなくても、草は太陽に当たり、雨  
にぬれてぐんぐん育つ。(人間と同じだ。ぼくも食べて  
育っている)だから、う家の人たちは田んぼのまわ  
りの草もぬいている。今、その田んぼは、草たちがの  
びまくって、きよ年、いねが実ったとは思えないくら  
いあれている。人の手がくわわらないとこんなひどい  
じょうたいになるのかと、毎日通るたびに、つらい気  
持ちになってしまう。四年生になった時には、米作りが  
できる田んぼにもどってほしい。草をぬいたり、たが  
やしたり、ぼくに出来る事があるなら、手つだうから。